



後名列女傳 卷之三十四



姓名列女傳卷之三 周錄

仁智

一 密康公母
 三 許穆夫人
 五 孫叔敖母
 七 衛靈夫人
 九 魯臧孫母
 十一 晉范氏母
 十三 魯漆室女
 十五 趙將括母

二 楚武鄧曼
 四 曹僖氏妻
 六 晉伯宗妻
 八 齊靈仲子
 十 晉羊叔姬
 十二 魯公棄姬
 十四 魏曲沃婦

一

目録

他名が女侍まゝに

仁智傳

一 密康公母

密乃康公の母ハ魏氏ありし周共ヨリ涇の在ル
 所ニありてわろびまてり。康公まゝにひたりたる
 時、初よりをんちりてり。母のつらき必
 けをうゑどもを王よりまらせよされ者歎類
 りけを群やし。人々みりを衆とせらるる
 を察とせり。王乃かゝり群をよす公此や
 とまらり衆うらむと。王乃郷一族をうけりせと
 るれ察義乃とのめんちり。海とめんちるた



歎類三ヲ群
人三人ヲ年
女三人ヲ望

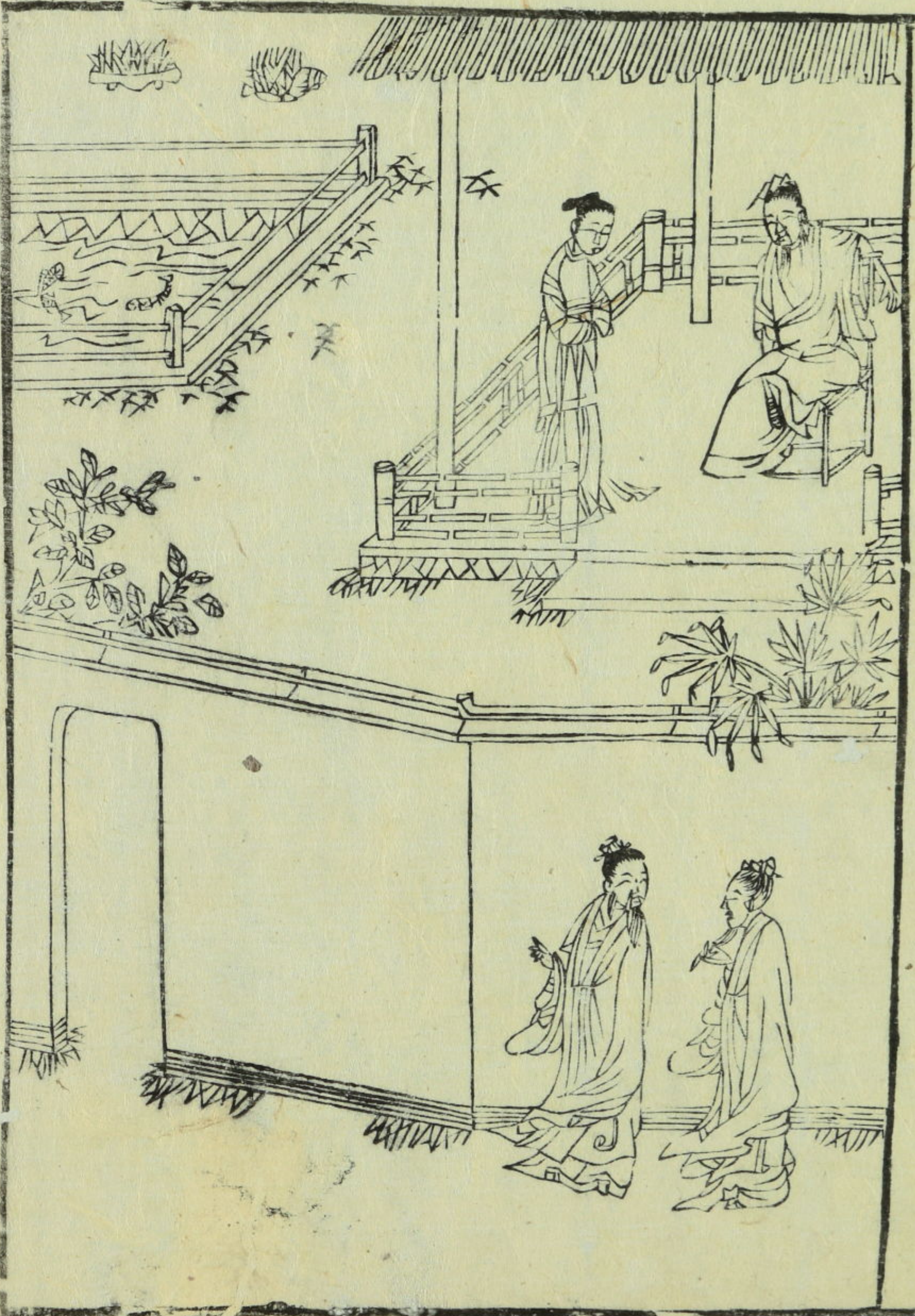


五三三

とくありてこれより王
 ありしをうらんやあんな小醜せうしゆあるをやこり
 めかれとも康公かうこうよりいふに
 されをいふをいふにす
 かり王
 かり密ひそをかりがかりき世に
 かり人密
 乃母をよしをいふに
 ひあり

としつゝ、
 して、
 よれり。かく、
 に社稷を、
 けれど、
 羽入衛を、
 すく、
 り、
 め、
 り、
 楚、

めを、
 じ、
 と、
 り、
 悠、
 す、
 ず、
 じ、



四 曹倍氏妻

曹乃大史侯負羈の妻あり。晉の公子重耳より
内をよみあつて曹乃をよきよし時曹は
公のわさすといとさけり。あはれし負羈の妻
重耳のやとりにちのづきつくもゆあせんとす
新こちあひをうむひてどむりをまきげり
りり彼人これあつたをらつて負羈より
これ晋れ公子をいす。いすはまじし人か
しく此人よりあつた國の相あはれし。あつたの物
みましくちを河りせく人をいす。あつた
つあつた晋れ公子をいす。いすはまじし人か

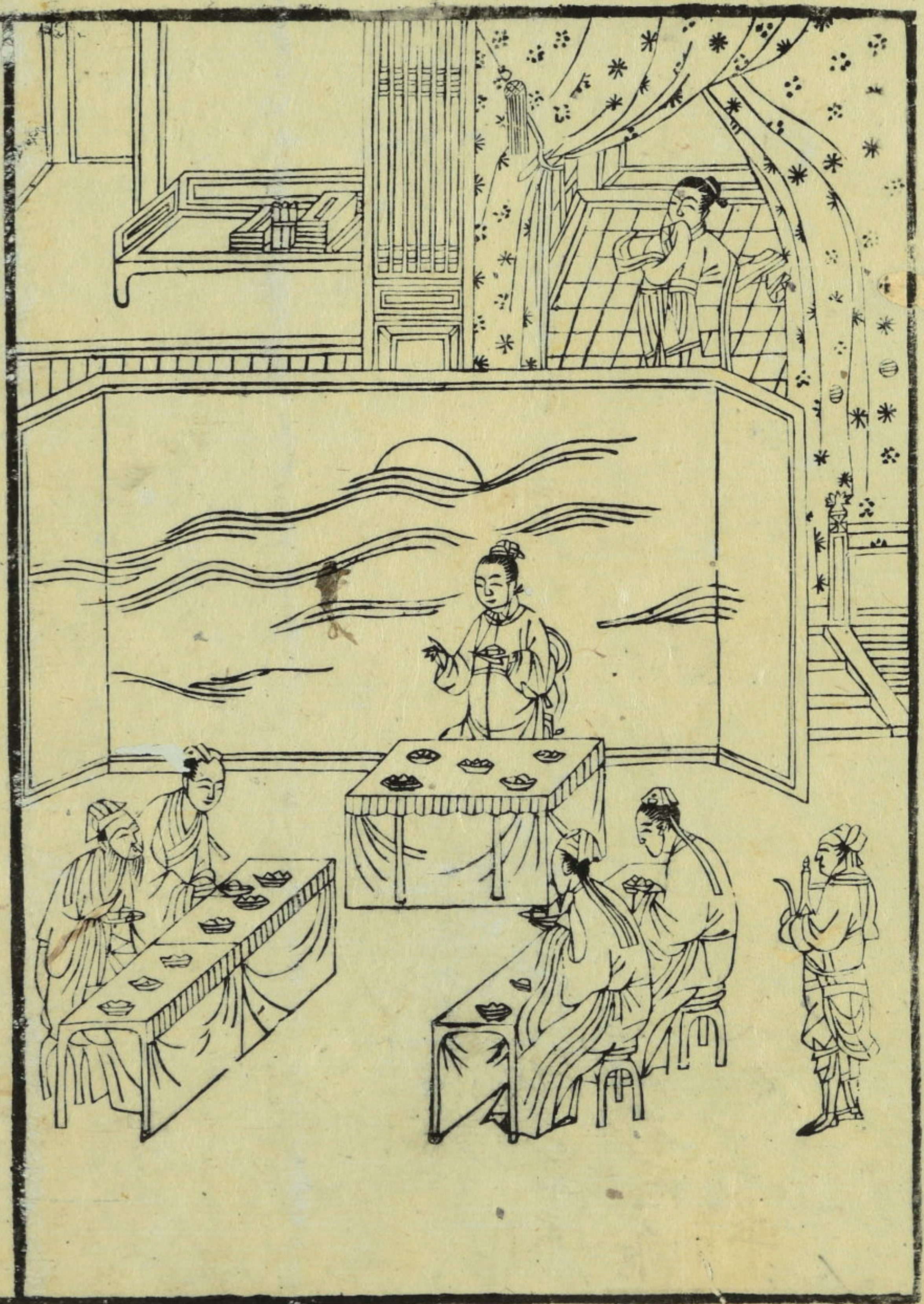
二つあるがあらず 驚諸侯もく令らうしとられたる
 かにうさひもあがりしをむくせむの曹をさ
 めさせしむる曹へさし曹へつ紐あつらふしあひひ
 せぬれ絲にさすられたるをさすむらむらむら
 ありぬるにさすむらむらむらむらむらむらむら
 子をさすむらむらむらむらむらむらむらむら
 ぬるむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 卿相れやむらむらむらむらむらむらむらむら
 王にさすむらむらむらむらむらむらむらむら
 一しとむらむらむらむらむらむらむらむらむら

りじむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 壁をさすむらむらむらむらむらむらむらむら
 ころむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 んしむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ち曹をさすむらむらむらむらむらむらむらむら
 ぐとむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 えてむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 せむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 有西羈がむらむらむらむらむらむらむらむら
 つらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ぬゆるふらむらむらむらむらむらむらむらむら

一、つらきもの。母れつらきもの。なほつらきもの。なほつらきもの。
 ちる。うれ。法。ある。もの。高。執。ある。もの。は。い。
 世。れ。さ。ご。う。の。ち。に。い。も。う。ら。さ。り。の。を。の。ご。り。
 天。の。も。い。わ。く。ひ。を。き。く。書。く。皇。天。無。親。惟。德。
 是。輔。と。う。あ。ん。ち。う。あ。ず。楚。入。く。あ。つ。く。は。く。を。
 えん。と。う。ま。い。く。あ。つ。せ。ら。る。く。い。も。あ。つ。く。ま。
 か。つ。つ。り。あ。く。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。
 は。お。り。令。尹。と。あ。つ。つ。も。う。あ。を。い。ら。め。け。り。
 くら。と。う。



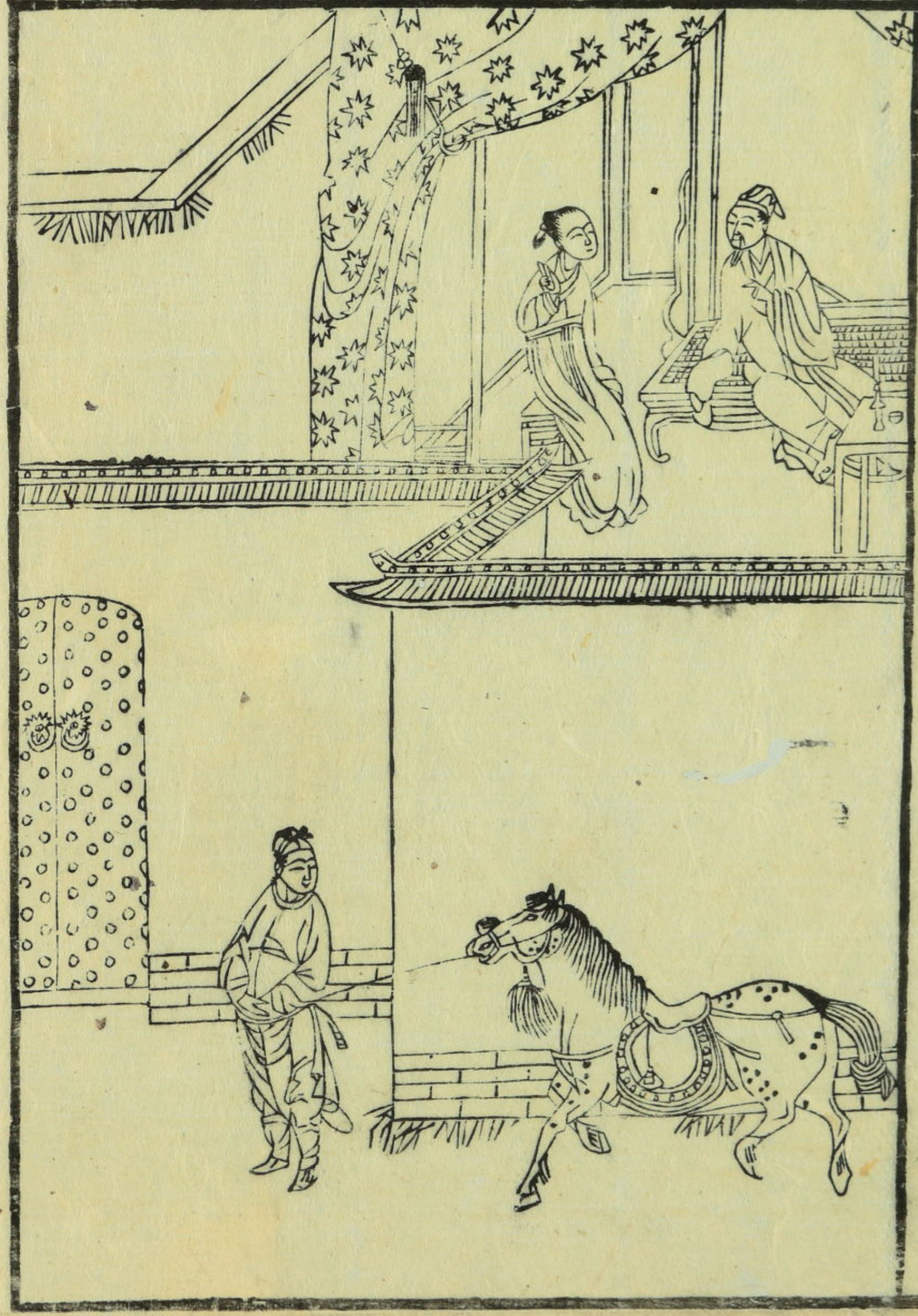
どのれんをわたせしむるはうきよくつとられ
 れて民をのぞくわさくさくたあしむるわさくさ
 くれが難うすすうに身いふまじいとなう
 これつるあんをいふうんをすうしう同家
 らがひあれがたあやうさくたどくふたつこ
 ちれんせうで賢文をいふくさり所辯をいふ
 よせま〜ま〜ま〜ま〜めくれ福宗うげむつ畢
 とつをいふ〜とれ〜交わりけり〜たれが薬不忌
 ふをいひて御宗を諸言〜さう〜く〜これ畢
 畢すあつち所辯をいふ〜さう〜く〜これ畢



七 衛靈夫人

い乃 靈公也夫人 靈公也乃 夫人とやと
たせし 車乃ををきこり。とろくを乃
れあぐやうつ。門をすむ。とろくを乃
よりしに。靈公これあふものあんと夫人よりしに
夫人これ 蘧伯玉あんと。夫人よりしに。夫人
がやととりれ。夫人乃のつ。妻きく 礼ふに
あり。路馬。式と殺をひらむ。ゆんこれ忠
孝子と。あきつ。あつ。節を之ど。
らきぐ。あつ。あひを。あつ。
きく。い乃 噴。夫人あつ。たつ。あつ。あつ。

い乃 靈公也夫人 靈公也乃 夫人とやと
たせし 車乃ををきこり。とろくを乃
れあぐやうつ。門をすむ。とろくを乃
よりしに。靈公これあふものあんと夫人よりしに
夫人これ 蘧伯玉あんと。夫人よりしに。夫人
がやととりれ。夫人乃のつ。妻きく 礼ふに
あり。路馬。式と殺をひらむ。ゆんこれ忠
孝子と。あきつ。あつ。節を之ど。
らきぐ。あつ。あひを。あつ。
きく。い乃 噴。夫人あつ。たつ。あつ。あつ。



八 齊靈仲子

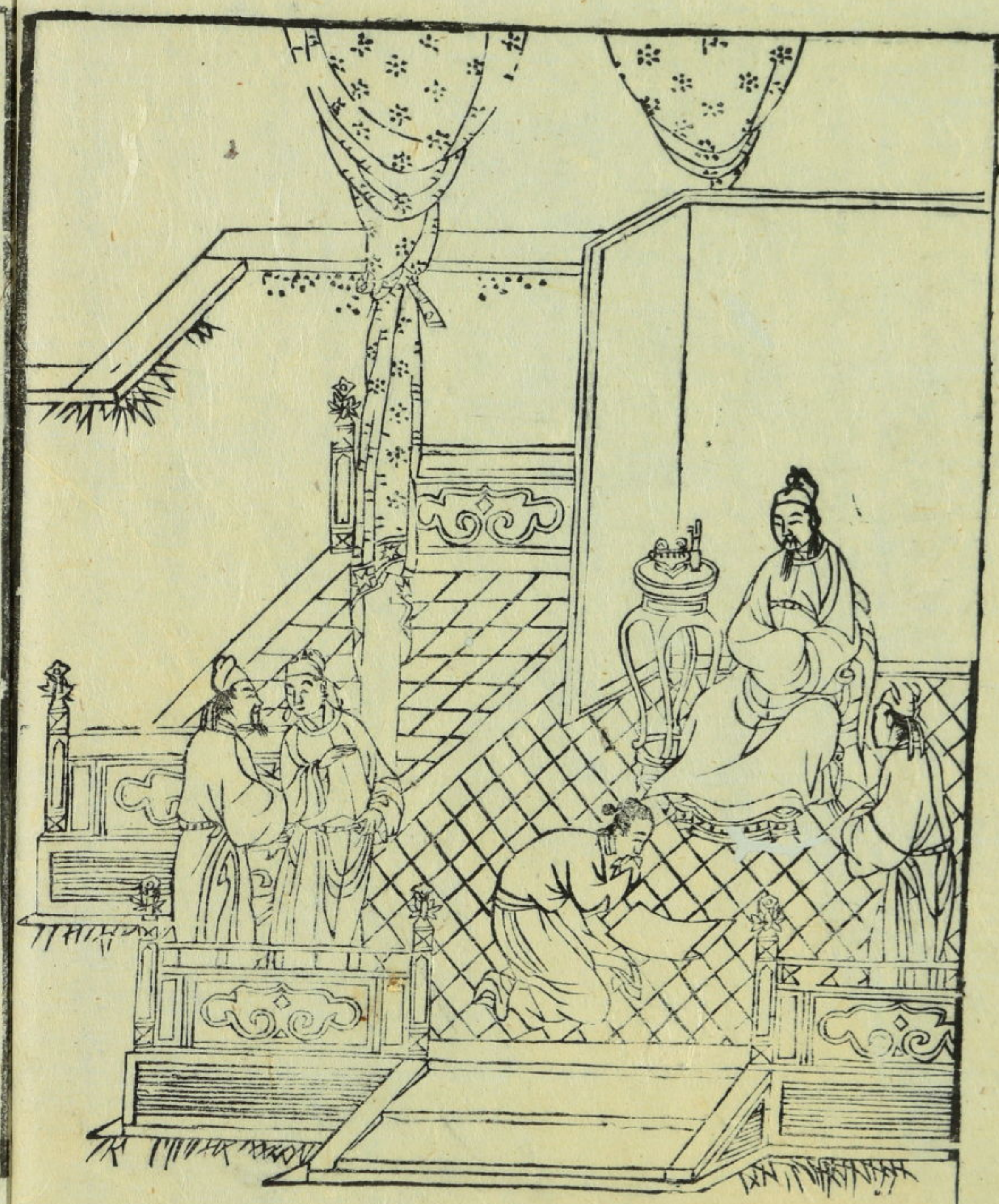
せいし 仲子^{なかつし}は宋^{そう}侯^{こう}のむむとめせい^{せい}の霊公^{れいこう}乃^{なり}夫人^{ふじん}あり
 ともめれい^いこう。魯^ろ乃^{なり}聲^{こゑ}姫^{ひめ}をせ^しらる^るてを^をう^うて
 里^{さと}を^をす^すま^まら^らる^るて太子^{たいし}を^をう^うて^てく^くら^らる^るり^りに^に
 こ^この^のち^ち夫人^{ふじん}仲子^{なかつし}い^いて^てし^して^て我^{われ}子^こと^とな^なす^す時^{とき}さ^さ
 づ^づ仲子^{なかつし}牙^がを^をう^うめ^めり^りて^てう^うて^て戎^{じよう}子^こ靈^{れい}公^{こう}を^を
 牙^がを^を太子^{たいし}に^にう^うめ^めり^りて^て老^{ろう}を^をひ^ひき^きて^てと^とあ^あら^らく^く
 う^うめ^めれ^れば^ばい^いて^ては^はと^とあ^あら^らひ^ひあ^あり^りま^ます^すに^に仲子^{なかつし}
 とい^いあ^ある^るを^をさ^さき^きわ^わき^きて^てあ^あん^ん終^{じゆう}る^るた^たれ^れは^はね^ねを^をや^や
 ぬ^ぬる^る不^ふ祥^{じやう}也^{なり}。諸^{しよ}侯^{こう}乃^{なり}衆^{しゆ}を^をさ^さし^して^てう^うり^りて^てを^をう^う
 し^しあ^あら^らん^ん。太^{たい}老^{らう}の太子^{たいし}を^をう^うめ^めり^りて^てと^とあ^あら^らず^ずて^て

諸侯^{しよこう}つつあはれり。今ゆへあはれきくこれをすまは
 らぬ。これ初^{はつ}いふに諸侯をちりず々々。謝^{あやま}れを
 て。ふ^ふ福^{ふく}をすまふあはれし。名^なのあはれすくいふ。あ
 りと。やけりあはれし。あはれしといふ。あはれし。あ
 して。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 牙^はをすまはれん。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 りと。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 大^{おほ}き。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 心^{こころ}をすまはれん。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 りと。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あ
 りと。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あ



をよみて。公も大吏とらなり。身をたむらひし
 けり。ありて。や。減之。仲が母の世に。た。これに
 一。を。は。と。せ。た。た。母をよびて
 文を齊へは。う。た。れ。は。は。を。を。
 せ。ぶ。め。や。と。う。ね。く。せ。た。れ。母。これ。を。え
 能。を。や。あ。つ。つ。い。と。う。あ。そ。わ。が。子。す。で。よ。く。れ
 て。あ。め。く。さ。め。き。ゆ。り。と。う。た。れ。は。あ。や。一。そ。
 いて。つ。さ。は。と。と。い。ま。り。母。は。く。飲。小。器。
 諸。台。へ。投。せ。し。郭。あ。る。前。を。と。り。これ。を。城。中
 に。つ。れ。と。獵。犬。を。く。ひ。て。羊。裘。を。せ。れ。と。い。ふ。は
 ち。と。の。つ。い。の。を。あ。ら。ど。と。く。甲。兵。を。さ。め。め。よ

と。想。が。合。さ。た。ま。り。これ。を。お。し。と。い。妻。を。お。り。て
 あり。わ。が。ひ。つ。ま。よ。く。せ。し。羊。一。母。あり。と。い。これ
 あり。つ。ま。り。つ。ま。り。母。を。や。と。い。ふ。は
 あり。食。家。の。同。魚。と。い。同。ハ。も。之。錯。錯。を。鋸。を。さ。し。し。る
 と。も。鋸。ハ。木。を。さ。し。し。る。と。も。あり。これ。木。あり。獄
 を。さ。し。し。る。冠。綵。し。す。お。ひ。あ。ま。り。あ。り。と。い。は。い。は。い。は
 け。く。も。つ。る。と。あ。い。す。う。く。食。を。い。と。と。い。は。い。は
 とも。わ。が。た。と。う。た。れ。も。あ。り。ま。い。め。れ。る。事。を。知
 る。と。し。せ。し。の。い。ま。も。い。ま。も。い。く。わ。が。い。害。を。の。す。人
 け。さ。い。ま。り。た。れ。は。齊。に。た。れ。を。つ。く。き。つ。つ。魯。を。を
 こ。つ。き。い。り。る。を。も。や。め。て。文。仲。を。魯。に。つ。け。り



十 晋羊叔姬

叔姬は羊舌子の妻あり叔向叔魚の母ありなり。
 ちくちやうを勝とあづも。ちくまを新とあづ
 けぶく。羊舌子もあひまのまにひきく。晋に
 まかへるもあひまのまにひきく。晋に
 にゆきく。晋にひきく。晋にひきく。晋にひきく。
 うららつく。あひまのまにひきく。晋にひきく。
 をくまひりのあひまのまにひきく。晋にひきく。
 くはなをうあひまのまにひきく。晋にひきく。
 晋にひきく。晋にひきく。晋にひきく。晋にひきく。
 まかへるもあひまのまにひきく。晋にひきく。

たりしにわかれぬをいひしをうもんと
 ちくるのあじとひくれはさうせしこれをう
 げく。勝と鮎とよあそくをうもんとまきう
 ちてさうひくをゆめくあまきちわさうあんと
 かもあれはあはれはま乾吉とよさうあり
 の子をせよあまをいさうとあつらう
 にありき子つひにまきとくをいひ
 今もひあまの勝と鮎とよあまに他は
 べき物を不義乃肉みくやあまのすいざれ
 をうもくはあまのあまのあまのあまの
 せんていあまのあまのあまのあまの
 てもれひううとあまのあまのあまの
 ひつをぬえりあまのあまのあまの
 しうにやうせいしわれをひつをうけう
 ちまきすくをまきくはらうとあまのあまの
 つしあまのあまのあまのあまのあまの
 くれが部吏あまのあまのあまのあまの
 とあまのあまのあまのあまのあまの
 ありくをまきくはらうとあまのあまの
 せしあまのあまのあまのあまのあまの
 わがまきくはらうとあまのあまのあまの
 うがわがあまのあまのあまのあまのあまの

一

一

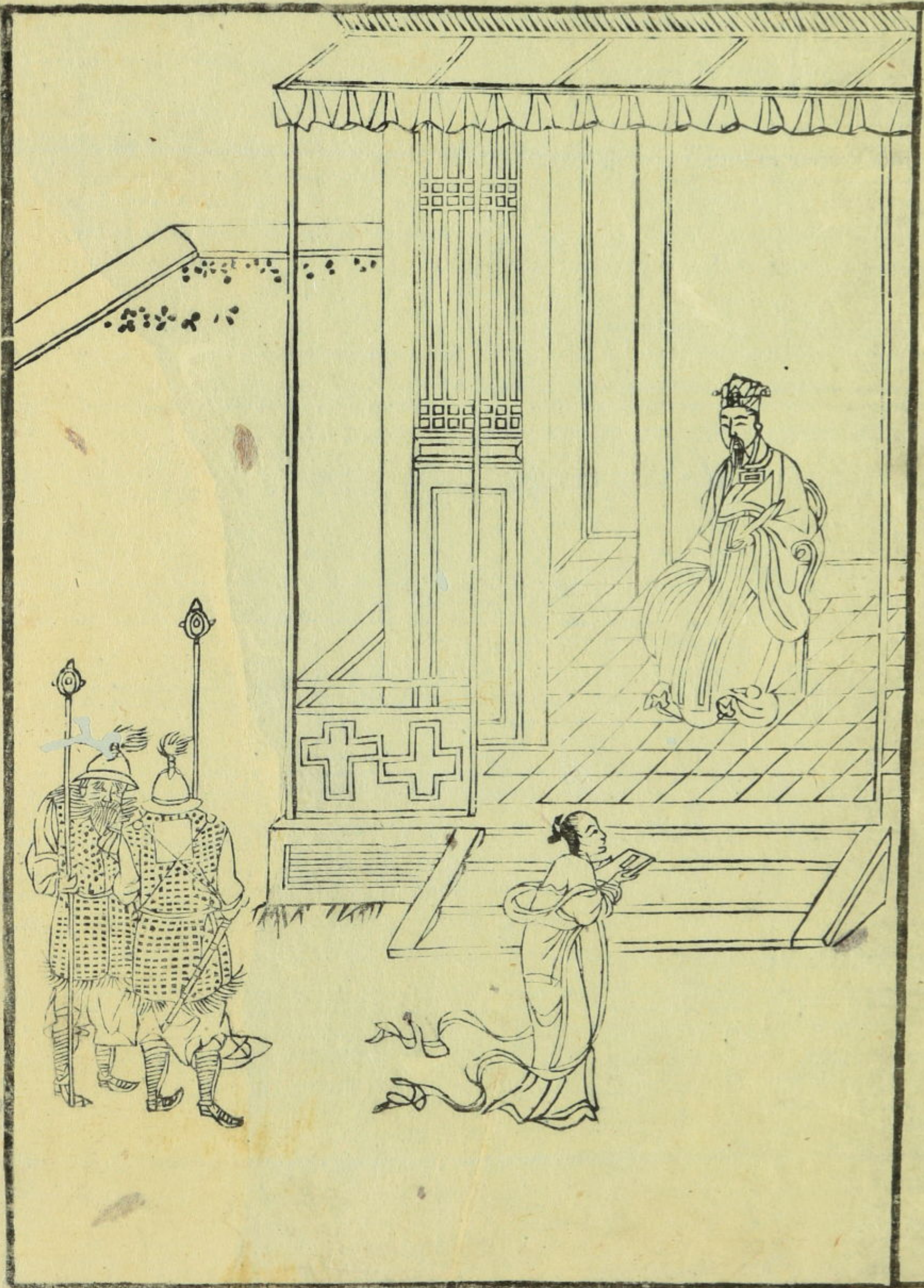
しりくしりくを平公とあつてきく食を
をうめり食を伯碩とあつてきく食を
すまをんお叔姫とあつて長姫のをうめりせ
けもうめりたてきく食をうめりせ
堂うめりたてきく食をうめりせ
りもけいおあつてきく食をうめりせ
ものあつてきく食をうめりせ
のあつてきく食をうめりせ
えざりきり食をうめりせ
をあつてきく食をうめりせ
吉成にれりきり食をうめりせ

あつき叔魚をうめりけいおあつてきく食を
りもけいおあつてきく食を
のあつてきく食を
えざりきり食を
をあつてきく食を
吉成にれりきり食を



十四 魏曲沃負

曲沃負きくわくふ魏み乃大夫如耳にのち之母はは秦しんより魏み乃公子こうし政せい
 ををしし魏みの夫はををす魏み乃良王りやうわうははひををけけ
 して太子たいしををめめてて魏みををむむししいいととああるるののをを
 よよきき人にんありありななれればば義ぎ王わうおおひひつつききししててくくんんとと
 乃な姫ひめととせんせんととするするをを曲沃負きくわくふ乃な女子じよし如耳にのちににりりややらら
 王わうああるるややししももわわざざとと給たまふふととすするるいいづづかかららととすす
 孫まごややつつまま戦せんむむ乃なととももいいづづかかららととすするるをを雄ゆうととすす
 ああるるものものああるるををいいづづかかららととすするる魏みののおおつつくくううななららまま王わう又また
 義ぎををいいづづかかららととすするるををいいづづかかららととすするるををいいづづかかららととすするる
 これををいいづづかかららととすするる魏み乃な女子じよし如耳にのちににりりややららん



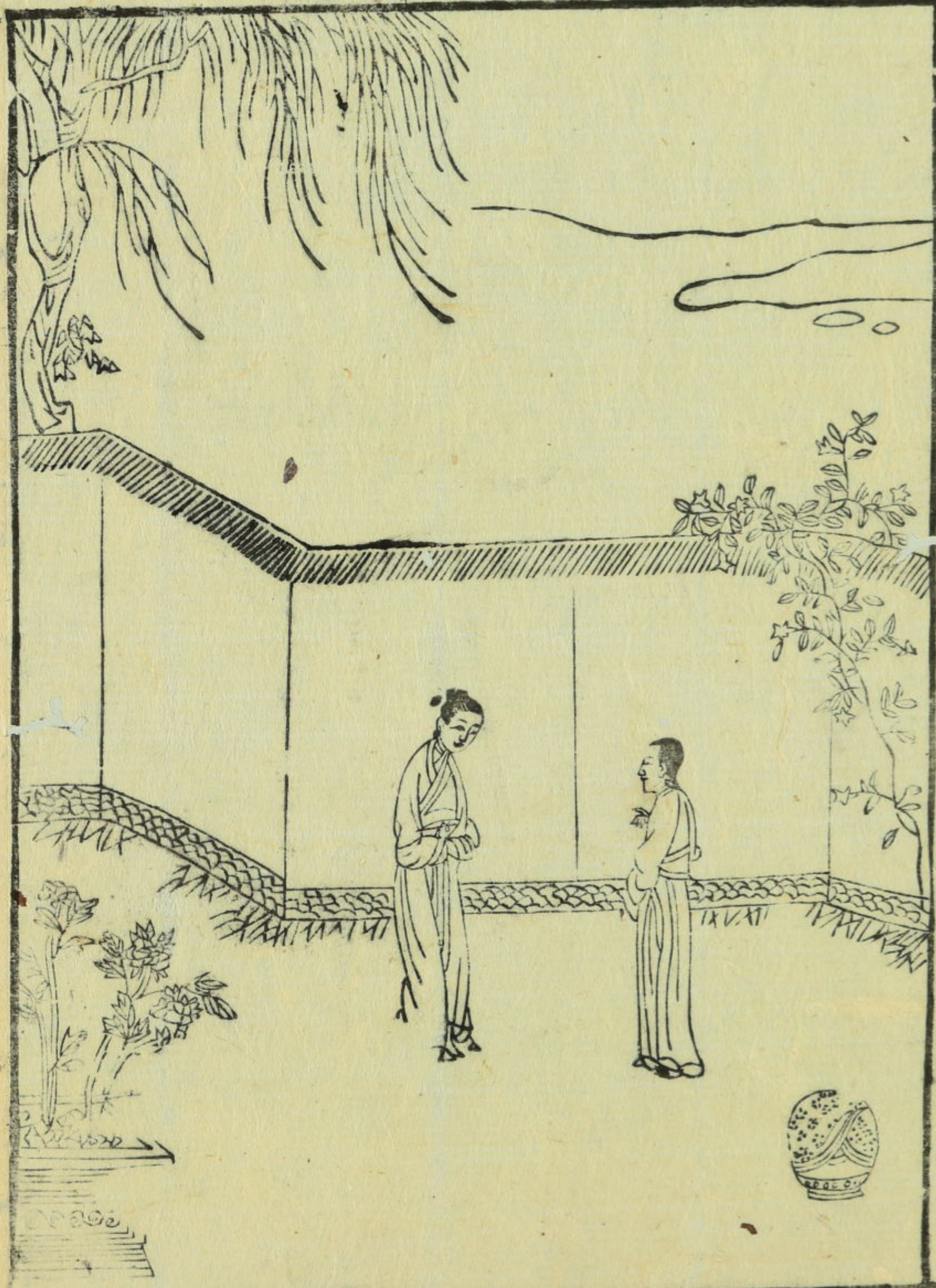
十五 趙將括母

趙乃將括^{けつ}の素^{もと}秦より趙をせり
 とし。趙乃^て孝成^{せいせい}王^{わう}括^{けつ}をこし廉頗^{れんけん}のこつり
 將^{しやう}括^{けつ}將^{しやう}括^{けつ}のこつりをこし括^{けつ}母^ぼ
 と書^かし。括^{けつ}を將^{しやう}括^{けつ}とあまひのりありとてこれ
 王^{わう}ありとてさうとせしむる。母^ぼ括^{けつ}の
 けやりのれ括^{けつ}の父^{ちち}のついでに父^{ちち}將^{しやう}括^{けつ}にふり
 らくはものをすまひもの殺^{ころ}す人^{ひと}友^{とも}とするもの百^{ひやく}
 をもとのとてゆる。括^{けつ}のちやありありある。括^{けつ}
 をもてぐく軍^{ぐん}吏^り士^し大^{だい}吏^りあはゆる。まは
 命^{めい}をけりてさうよひ日^ひにわが家^{いえ}に事^{こと}あら

すくしてさうゆーの。一且將とありて。ある
 軍吏をあつ。軍吏あつてあつ。
 ものゆす。あつやもよりあつ。あつ。
 きぬら。あつ。あつ。あつ。あつ。
 田地を。あつ。あつ。あつ。あつ。
 父や。あつ。あつ。あつ。あつ。
 ねれ。あつ。あつ。あつ。あつ。
 王。あつ。あつ。あつ。あつ。
 括。あつ。あつ。あつ。あつ。
 趙。あつ。あつ。あつ。あつ。
 王。あつ。あつ。あつ。あつ。
 括。あつ。あつ。あつ。あつ。
 母。あつ。あつ。あつ。あつ。
 仁。あつ。あつ。あつ。あつ。

傳名列女傳巻之四 貞婦

- | | | | |
|----|------|----|------|
| 一 | 召南申女 | 二 | 宋恭伯姬 |
| 三 | 衛宣夫人 | 四 | 蔡人之妻 |
| 五 | 黎莊夫人 | 六 | 齊孝孟姬 |
| 七 | 息君夫人 | 八 | 齊杞梁妻 |
| 九 | 楚平伯羸 | 十 | 楚昭貞姜 |
| 十一 | 楚伯貞姬 | 十二 | 衛宗二嬪 |
| 十三 | 魯寡陶嬰 | 十四 | 梁寡高行 |
| 十五 | 陳寡孝婦 | | |



御名列女傳巻之四

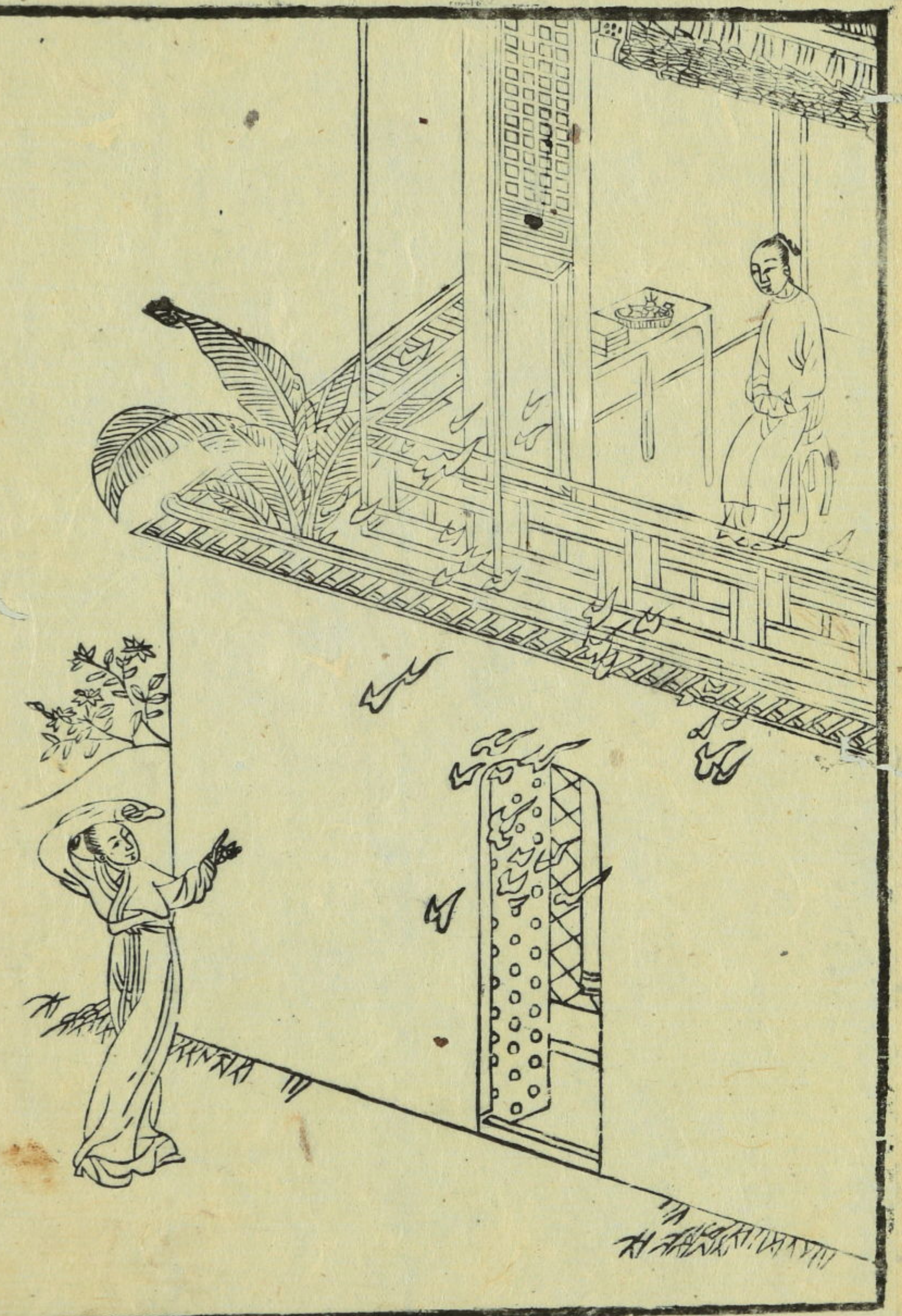
貞順傳

一 百南申女

百南の申女も申入るにむらさきの野とやうな
 いふあつあつをがれおとろひてりそりそり
 きりたををもとめくまへてあつあつすまへに
 ひつんとせしにんあある人うりやういふもの
 らも父偏るもめられも礼をせよとて
 へいせいといふりり。傳いりてくまへてをいすま
 とまよりのけのものをかきかへるやうな毛け
 さばりあやまらりてもやういふものこと

百南

あり。これをきく本立く道ある深き道なり
 あり。これをきく。おのづからよきことあり。心重きを
 葉をけ。先祖つぎ。宗廟のまこと。ゆん。今。おこ
 り。と。う。礼をうり。制。う。ま。う。か。き。や。か。じ
 と。ひ。う。お。く。く。ゆ。け。り。れ。ば。お。こ。い。き。と。ま。り。く。
 け。あり。く。く。これを獄。う。く。せ。り。き。は。れ。ど。も。女
 り。め。一。礼。う。り。け。る。を。ま。く。節。を。ま。り。義。を
 こ。も。ち。必。死。と。く。ゆ。す。う。う。う。く。け。り。く。い。く。
 影。を。味。く。う。ま。と。く。と。い。ま。室。家。く。ま。り。い。く。
 此。これ。お。こ。れ。も。の。礼。の。体。り。を。う。り。ま。り。く。
 身。礼。け。来。を。く。も。遠。欲。の。け。を。隔。ぐ。志。や。く。く。け。り。を



列女四

二

ろれぬ人々も其義の侍母のつづかれはる堂ありか
 目ずられ義のつづきしきんよりい義をす
 りと死をんうはきすとりひくつぬうりく
 ざりられは火あはくしきしきりきさきか
 のあういごんきうせまひくもせんまこにいを
 すくも貞女うらをすもねるはづいさ
 きわがられはや春秋といふもま
 ーきしきいにいひつてくぬがくせんあ
 をつせりし事をもつてそれは諸
 候しきしきもあつていひはる
 あけしきしきもあつていひはる



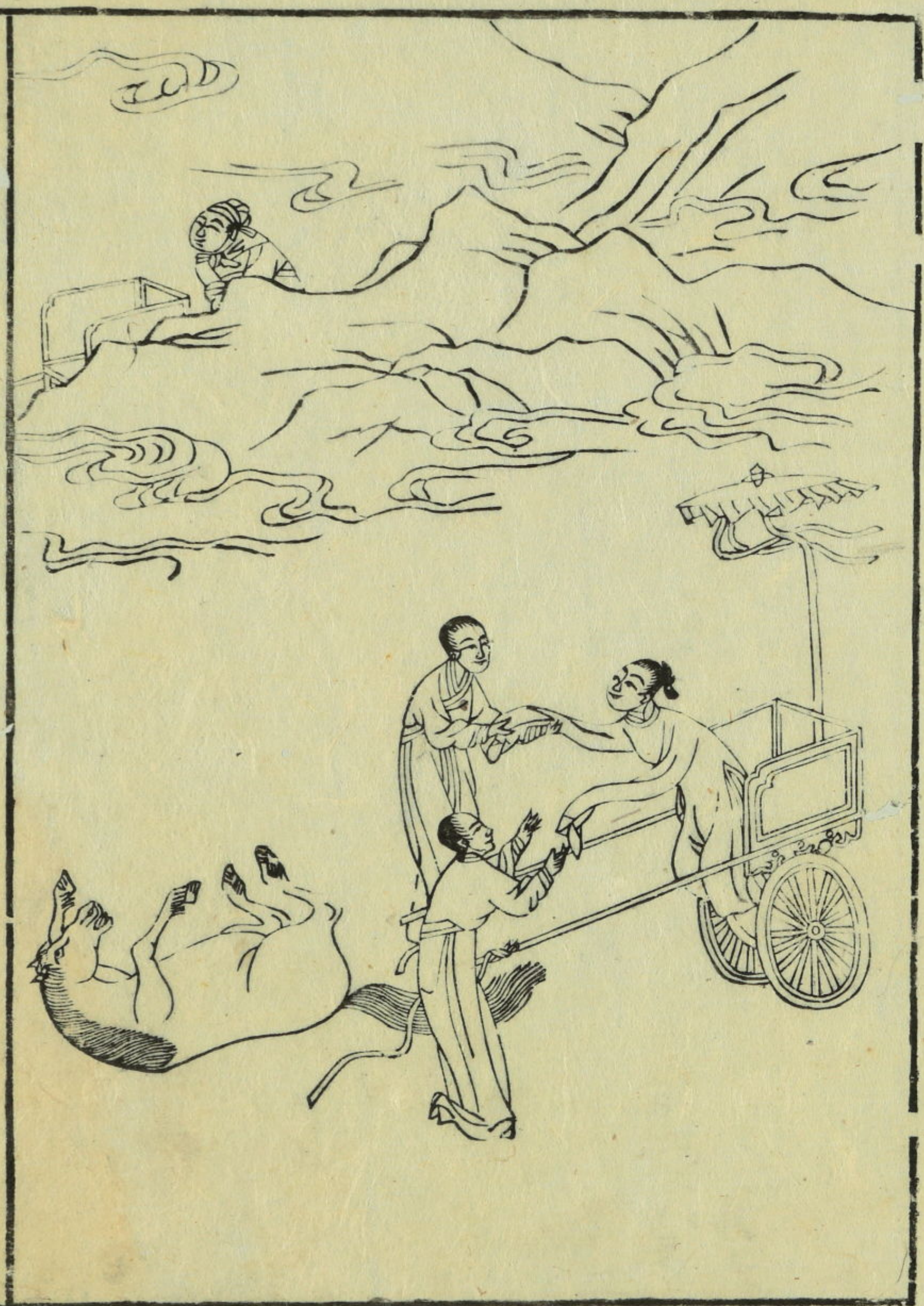
何女

三衛宣父人

げ丈人の齊侯のむとめありしを衛よりもちきりし
うにかりおとすくすむに城乃戸らふりり
あふんとすくすく色衛乃さくく世あひ保母
丈人すすめきくくくくくをりくられど
きうられめきくけわくくくくくくくくく
變をつしをりりきりき衛乃さくくのめくく世
つぎうくくくく丈人きりきくくくく衛乃小國
れはくくくくくくを地らるにえくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくく
あふんくくくくくくくくくくく丈人うきくく

くはねる又齊乃くく人をつりつ丈人のり
うあふんくくくくくくをりくくくく齊乃
あふめくくくくくくくくくくくくくくく
くくくのりくくくくくくく衛乃さくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
あふんくくくくくくくくくくく丈人けく
あふんくくくくくくくくくくくくくくく
ろくくくくくくくくくくくくくくくく
れくくくくくくくくくくくくくくくく
のらふくくくくくくくくくくくくくく
あふんくくくくくくくくくくくくくく

義経の事
 の事
 詩つる
 式微式微胡不歸
 婦人
 一の
 君命を奉る
 詩
 君之故胡為中路停
 君命を奉る
 のちれ君子
 詩
 一の



四女

九

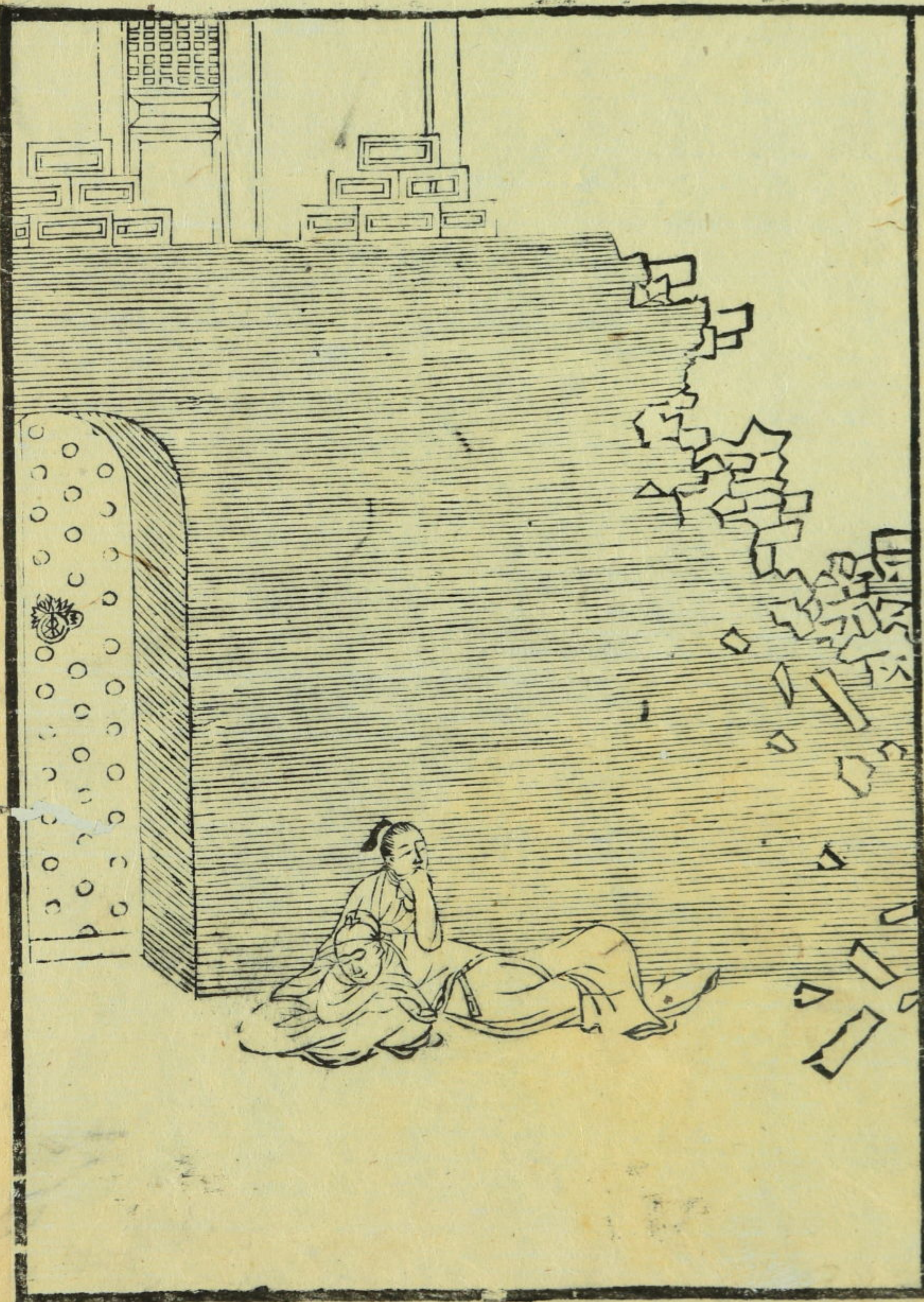
小結紐こむすぶねすくひめがし野の處ところの帷裳かきすきおあ
 りこれこれををししててららをを一いつつととああらら
 めめせせいいせせららゆゆんんししててふふ今いまくくるるををここらら軒のき
 ああままれれいい命いのちををききここふふわわららどど野の處ところふふ衛ゑああらら
 久ひさききくくををここららふふわわららどど礼れいををううああひひつつおお
 ららんんいいままををくく死しああんんららいいままどどつつららせせたたれれはは使つかい
 ぎぎももああままつついいままををここららふふわわららどど考かうふふふふままとと
 つつげげくくささふふ安あん車くるまををめめががしし出でららううらら使つかいののい
 みみししたたらら孟もう姫ひめととふふららううららいいままををくく死しああんんととも
 傳でん母ぼををすすここいいままををくく死しああんんととも
 ささららううらら輜し輶いううららたたれれ孟もう姫ひめももせせららううららいいままををくく死しああんんととも



七 息君史入

息乃きこれ史入^{しに}楚^{しゆ}より息をうらやうつてを君
をよりこふ^しく^しを門^{かど}をすま^しし^しび^しく^し史入^しを
とりては^しよりせん^しく^し宮中^{みやちゆう}に^し事^{こと}をきぬ楚王^{しゆわう}
あう^しか^しり^しつ^しく^しり^しく^しひ^し中^{なかつ}の^し史入^しひ^しう^しく^し宮中^{みやちゆう}
を^しあ^しく^し息^{いき}れ^しく^しふ^し悪^{あく}び^しや^しの^しあ^しく^しし^しり^しや^しん^し
乃^しより^しあ^しる^しふ^しを^しう^しく^しは^しぬ^しあ^しが^しく^しを^しり^し
り^しす^しお^しれ^しは^し楚^{しゆ}れ^しす^しま^しき^しを^しり^した^しれ^しぬ^しら^しり^し
ゆ^しく^しく^しく^し心^{こころ}を^しあ^しる^しく^しあ^しく^しい^しふ^しあ^しめ^しし^し
か^しく^しち^しり^しく^しの^しち^しは^しぬ^しあ^しく^しい^しふ^しあ^しめ^しし^し
う^しも^しき^しく^しい^しふ^しあ^しり^した^しれ^しぬ^しら^しり^しく^しあ^しめ^しし^し

す^しり^しつ^しわ^しあ^しく^しま^しり^しあ^しり^しく^しち^した^しれ^しぬ^しせ
を^しり^しん^しと^しあ^しん^しあ^しり^しあ^しり^しく^し詩^しつ^しり^しく^しつ^しく^し
殺^{ころ}則^{すなは}異^い室^{しつ}死^し則^{すなは}同^{どう}穴^{けつ}有^あ如^{ごと}不^ふ信^{しん}死^し如^{ごと}曠^{くわう}日^{じつ}と^しり^した^しれ
む^し息^{いき}乃^しき^しく^しの^しあ^しく^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
く^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
あ^しを^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
人^{ひと}は^しぬ^しま^しき^しく^しれ^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
く^し息^{いき}君^{きん}も^しく^しく^し自^じ害^{がい}く^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
楚^{しゆ}王^{わう}お^しり^しく^しく^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
史^し入^{にゅう}乃^し節^{せつ}を^しあ^しり^しく^し義^ぎあ^しる^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し
し^し諸^{しよ}侯^{こう}乃^し礼^{らい}を^しあ^しり^しく^しく^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^しあ^しり^しく^し

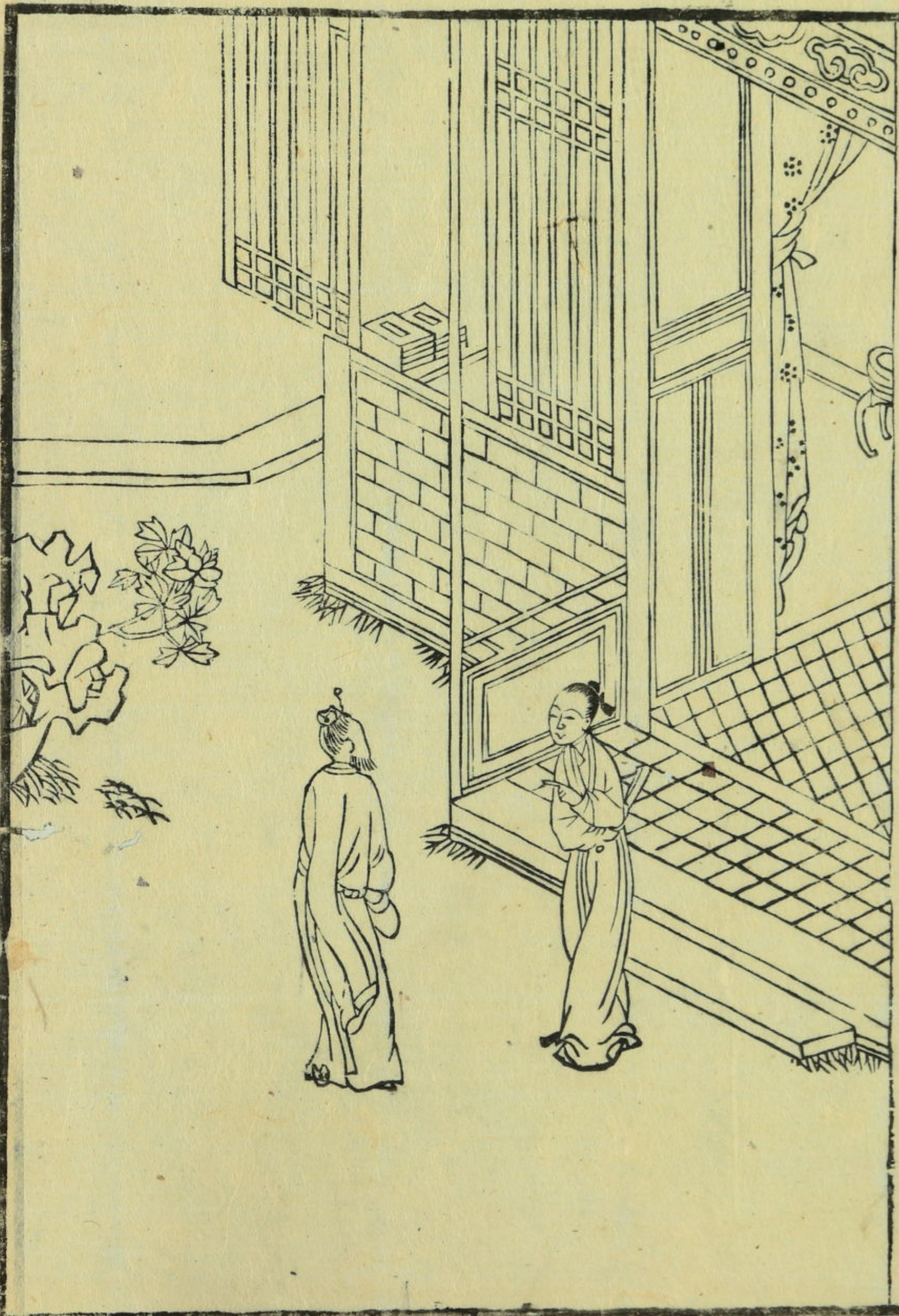


八 齊杞梁妻

^{世い}齊の^{せいの}莊公^{まへみ}と^{せいの}して^き首^みを^きせりしに^{せいの}
 さう^しに^{せいの}杞^き梁^{りやう}殖^{しつ}と^{せいの}て^{せいの}の^{せいの}妻^{めかけ}と^{せいの}り^{せいの}
 ら^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}
 は^{せいの}う^{せいの}り^{せいの}杞^き梁^{りやう}の^{せいの}妻^{めかけ}と^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}
 が^{せいの}妻^{めかけ}と^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}
 せ^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}
 と^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}
 ま^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}
 う^{せいの}り^{せいの}し^{せいの}て^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}を^{せいの}ひ^{せいの}

一 田舎の風物
 一 田舎の風景
 一 田舎の人情
 一 田舎の生活
 一 田舎の歴史
 一 田舎の文化
 一 田舎の教育
 一 田舎の産業
 一 田舎の交通
 一 田舎の医療
 一 田舎の宗教
 一 田舎の政治
 一 田舎の経済
 一 田舎の社会
 一 田舎の環境
 一 田舎の治安
 一 田舎の衛生
 一 田舎の福祉
 一 田舎の発展
 一 田舎の未来

一 田舎の歴史
 一 田舎の文化
 一 田舎の教育
 一 田舎の産業
 一 田舎の交通
 一 田舎の医療
 一 田舎の宗教
 一 田舎の政治
 一 田舎の経済
 一 田舎の社会
 一 田舎の環境
 一 田舎の治安
 一 田舎の衛生
 一 田舎の福祉
 一 田舎の発展
 一 田舎の未来



九 楚乎伯羸

伯羸はくゑいも秦しんのわがごうのむしめ楚しゆの平王へいせい乃なり夫おとこ之の昭せう
 王わう乃なりくさうりあんわうくさる。昭せう王わうのともむ。呉ごと音おと不ふ
 こころひつてつてさやかれよくれは呉ごにれつてあども
 楚しゆ乃なりちやこ鄂あつとふとふとふとれつてなり。昭せう王わう見けん
 つてあくさくまびくくあもゆまひくれは呉ご王わう盪たう周しうや
 こ楚しゆ乃なり后ごう妃ひをちよめてこもくく妻さいとてつて
 に伯羸はくゑいちつづきつてうるはきりくさうごつて
 つてさくやうくのがれくくつてあうくれは伯羸はくゑいくさ
 をとづてつて周しう周しうしよひくくつてされきく
 天子てんしハ天下てんかに表ひょうあり。公こう侯こうハ一國いつこくの儀ぎしよや天子てんし

一ノ四

十五

じとがたやのりきこしむの呉王園周もまがし
 ららまのひくやあしあつふまつてまがしや
 里うやまのいんれい倫義やがくそれ保母あまの
 に永巷乃門をとらむくはくまんまのけり
 りう秦乃ふよりつえまのあまのまきこり
 すまのまがしうたれまの船もまがし
 倫義もこまのまがしあまのまがし

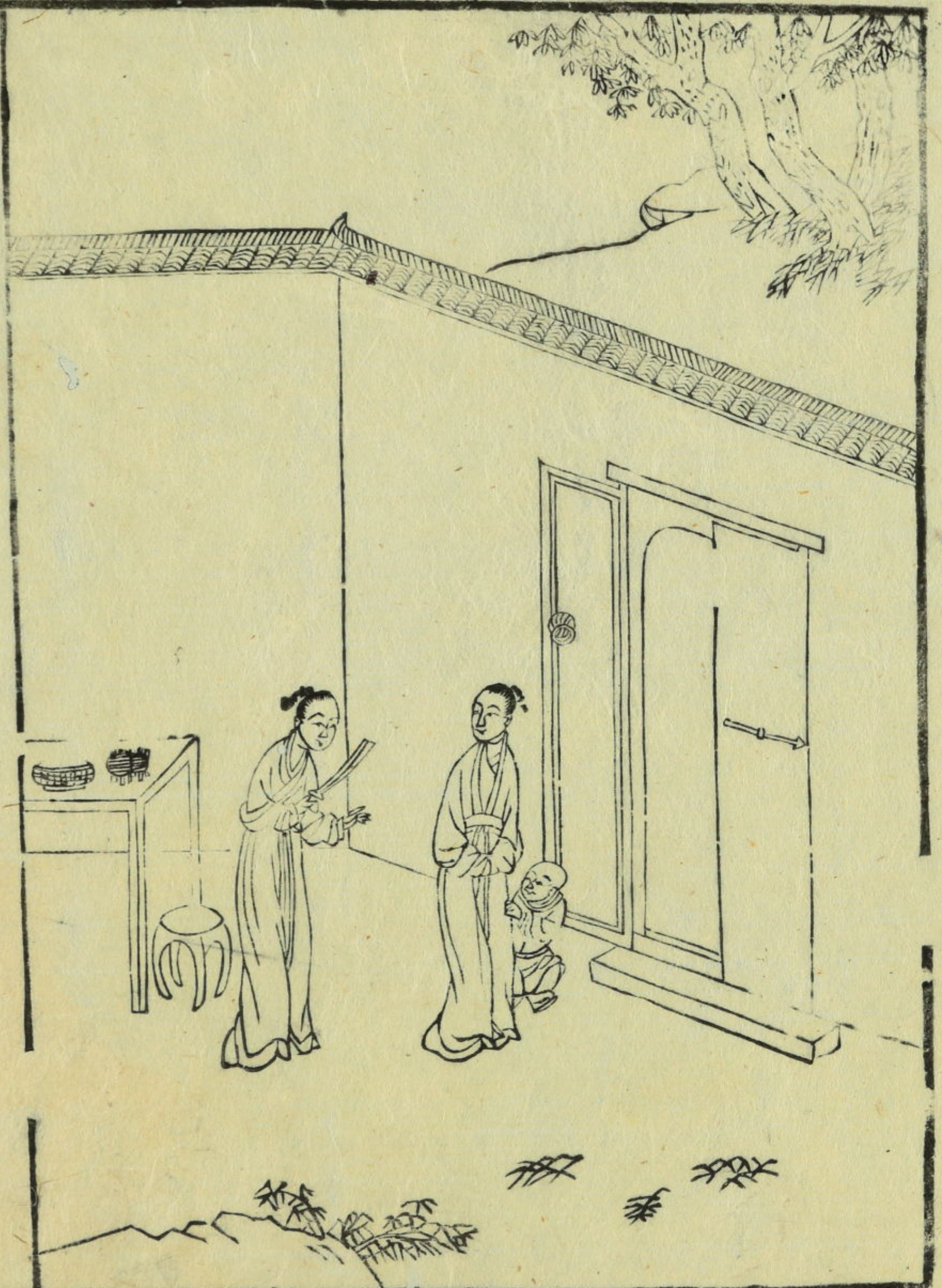


十一 楚白貞姬

楚國乃白之勝^ク。世々ののちを妻^ウひたり。故^コに勝^{カチ}つては
きりぎりぬ。昔^{イマ}も、白^{ハク}は、勝^{カチ}つては、故^コに勝^{カチ}つては、
とりて、勝^{カチ}つては、呉王^{コウ}を、故^コに勝^{カチ}つては、
を、故^コに勝^{カチ}つては、大吏^{ダイシ}お、
百強^{ヒヤクキョウ}を、故^コに勝^{カチ}つては、
く、故^コに勝^{カチ}つては、
の、故^コに勝^{カチ}つては、
世^ヨお、故^コに勝^{カチ}つては、
と、故^コに勝^{カチ}つては、
お、故^コに勝^{カチ}つては、

あ、故^コに勝^{カチ}つては、
よ、故^コに勝^{カチ}つては、
き、故^コに勝^{カチ}つては、
ま、故^コに勝^{カチ}つては、
ら、故^コに勝^{カチ}つては、
る、故^コに勝^{カチ}つては、
わ、故^コに勝^{カチ}つては、
を、故^コに勝^{カチ}つては、
世^ヨと、故^コに勝^{カチ}つては、
ら、故^コに勝^{カチ}つては、
死^シせ、故^コに勝^{カチ}つては、

乃あまきく子ありきふひへともいふ世傳る事
 ころきこれゆめせめくあごらあごあごをう
 一しとまをこまはれりつとあゆりごとあ
 かしとらきゆりつとあゆりつとあゆりつとあ
 はぬりさうりつとあゆりつとあゆりつとあ
 ありにたり。異日^{ことひ}をたまり。義^ぎを
 ころきつとあゆりつとあゆりつとあゆりつとあ
 ゆりつとあゆりつとあゆりつとあゆりつとあ
 ゆりつとあゆりつとあゆりつとあゆりつとあ



と申すは孝子の節をば一歩にして自害の事
をうけしをいふはあらざるにせむいふ事
の節をくばりてかくて人よつて人よつて
よりけりてはなほ人よつて人よつて
びよんていふにあらざるをいふにあらざる
せよよといふ事ありてはなほ人よつて人よつて
くばりてはなほ人よつて人よつて
つていふ事ありてはなほ人よつて人よつて
くばりてはなほ人よつて人よつて
ぬと申すは孝子の節をば一歩にして自害の事

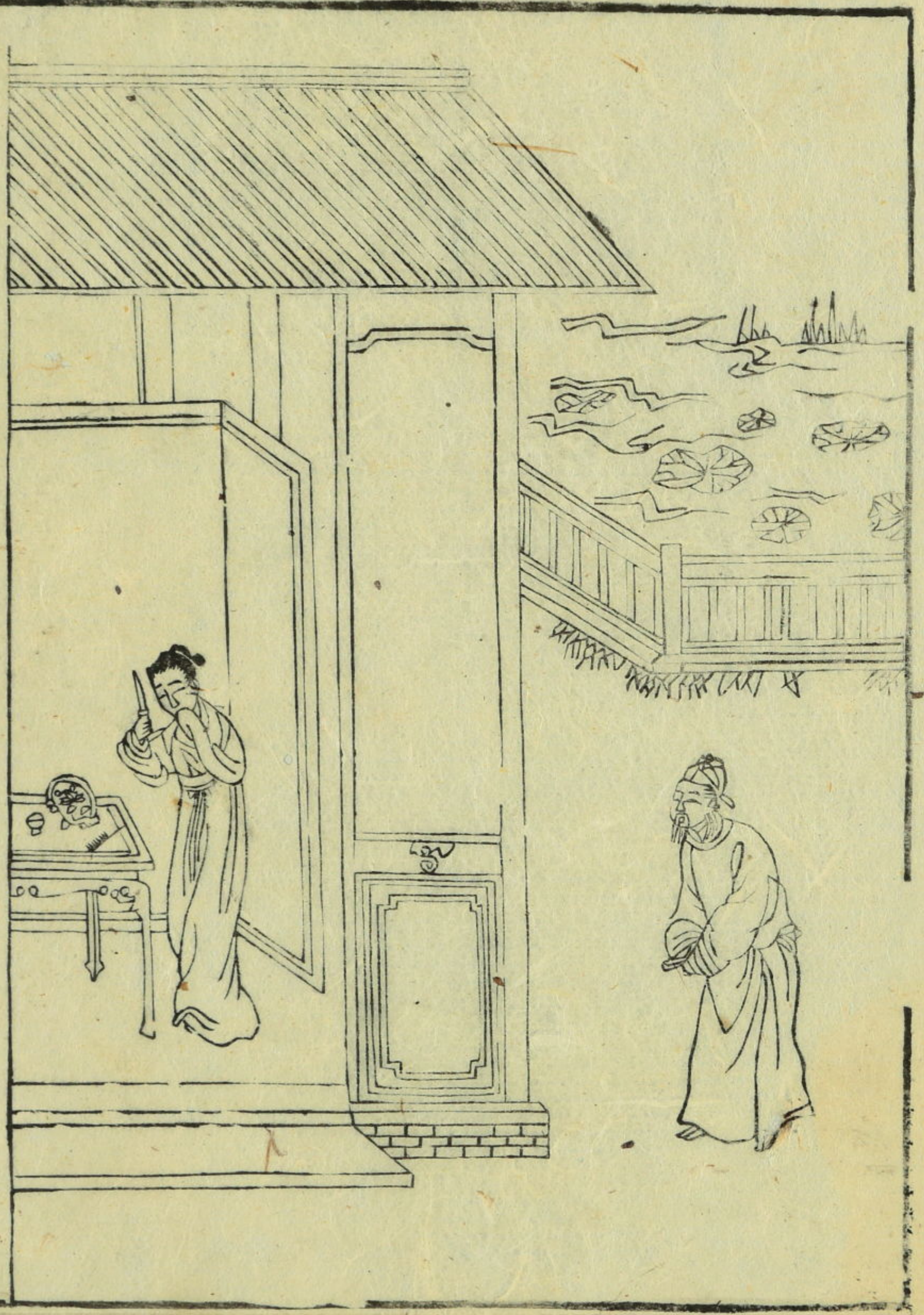
やうにあらざるは孝子の節をば一歩にして自害の事
をうけしをいふはあらざるにせむいふ事
の節をくばりてかくて人よつて人よつて
よりけりてはなほ人よつて人よつて
びよんていふにあらざるをいふにあらざる
せよよといふ事ありてはなほ人よつて人よつて
くばりてはなほ人よつて人よつて
つていふ事ありてはなほ人よつて人よつて
くばりてはなほ人よつて人よつて
ぬと申すは孝子の節をば一歩にして自害の事



十三魯寛陶嬰

陶嬰魯の陶門のむらさきあざむき
 とありしをともさきいひをえりしむらさき
 うらなひをきりしむらさきいひをえりしむらさき
 ありしむらさきいひをえりしむらさきいひをえりしむらさき
 ありしむらさきいひをえりしむらさきいひをえりしむらさき
 陶嬰これをきりしむらさきいひをえりしむらさき
 やせむらさきいひをえりしむらさきいひをえりしむらさき
 うらなひをきりしむらさきいひをえりしむらさき
 ありしむらさきいひをえりしむらさきいひをえりしむらさき
 ありしむらさきいひをえりしむらさきいひをえりしむらさき
 今不子衆同。黄鶴之早寛ハ七年不懺及。鷓鴣頭独有
サトウチノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
キウコウノサウヂノトモトシノトモトシノトモトシ
セウヂノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
ツバメノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
シメツバメノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
アキヒノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
サトウチノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
キウコウノサウヂノトモトシノトモトシノトモトシ
セウヂノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
ツバメノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
シメツバメノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ
アキヒノトモトシノトモトシノトモトシノトモトシ

寡兮。独宿何傷。寡婦念此兮。泣下數行。嗚呼
あはれめ子しとてまゆかみぞのまきく
 哉兮。死者不可忘。死者尚存兮。况于貞良。雖有
いせらふものすぢがうわさるひてり
 賢匹兮。終不棄約。とどろく。此よりひんをさす
たひひ
 けし今。此をんをいといふまじらなりとつひく。
 少くびいひさう。せとあんありくる。陶嬰やとめ
とうきん
 あり。ほわう。身をさするまじく。こゝろをあつて
 けしをいさめ人々あり。やとめをいひと。あ
 けえ。あめまじらなり



てまゝをとりつゝにむらりたれたるをいふまゝにさかゝりて
 己れをいふまゝにさかゝりてさかゝりてすゑにさかゝりて
 乃とらるるをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 かりのちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 しるゝをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 てまゝにさかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりて
 とまゝにさかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりて
 あゝ。信しんと義ぎといふ人なりすまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 さかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりて
 てまゝにさかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりて
 とまゝにさかゝりてすゑにさかゝりてすゑにさかゝりて

ら。ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 こをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 らんといふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 われをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 をいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 らんといふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて
 ちをいふまゝにさかゝりてすゑにさかゝりて

乙未

廿七

